

車いす客 階段上らされる

鹿児島県奄美市の奄美空港で今月5日、格安航空会社(LCC)「バニラ・エア」(本社・成田空港)の関西空港行き便を利用した半身不随で車いすの男性が、階段式のタラップを腕の力で自力で上らされる事態になっていたことがわかった。バニラ・エアは「不快にさせた」と謝罪。車いすでも搭乗できるように設備を整える。

バニラ・エア 奄美



搭乗時の経緯を説明する木島英登さん(大阪府豊中市)

謝罪、昇降機を導入へ

木島さんがタラップを上ったときのイメージ



男性は大阪府豊中市のバリアフリー研究所代表、木島英登さん(44)。高校時代にラグビーの練習中に背骨を損傷し、車いすで生活している。木島さんは6月3日に知人5人との旅行のため、車いすで関西に向かった。木島さんとバニラ・エアによると、搭乗便はジェット機で、関西には搭乗アシスト機があるが、奄美空港では降機がタラップになるとして、木島さんは関西の搭乗カウンターでタラップの写真を見せられ、「歩けない人は乗れない」と言われた。木島さんは「同行者の手助けで上り下りする」と

と伝え、奄美では同行者が車いすの木島さんを担いで、タラップを下りた。同日、今度は関西行き便に搭乗する際、バニラ・エアから業務委託されている空港職員に「往路で車いすを担いで(タラップを下りたのは)同社の規則違反だった」と言われた。その後、「同行者の手伝いのもと、自力で降機昇降をできるなら搭乗できる」と説明された。同行者が往路と同様に車いすを担(う)したが、空港職員が制止。木島さんは車いすを降り、階段を背にして17段のタラップの一

番下の段に座り、腕の力を使って一段ずつ上り上がった。空港職員がそれだけだめですと言ったが3〜4分かけて上り切ったという。木島さんは旅行好きで、15ヵ国を訪れ、多くの空港を利用してきたが、連絡なく車いすで行ったり、施設の整っていない空港だったりしても「歩けないことを理由に搭乗を拒否されることはなかった」と話す。

バニラ・エアはANAホールディングスの傘下で、国内線と国際線各7路線で運航する。奄美空港だけ車いすを持ち上げる施設や階段昇降機がなく、車いすを担いだり、おんぶしたりして上り下りするの危険なので認めていなかったという。バニラ・エアは奄美空港でアシストストレッチャー(座った状態で運ぶ担架)を14日から使用、階段昇降機も20日から導入する。

同社の松原幹人事・総務部長は「やり取りする中でお客様が自力で上るようになった。職員は見守るだけになった。こんな形で搭乗はやるべきでなく、本意ではなかった」とし、同社は木島さんに謝罪。木島さん

車いす想定は当然

内閣府の障害者制度改革担当室長を務めた弁護士東俊裕・熊本学園大学教授(障害法)の話 公共交通の一翼を担う航空会社として、車いすの障害者にどうやって乗ってもらうかを想定するのは当然のことだ。昨年4月に施行された障害者差別解消法では、正当な理由のない障害者へのサービス拒否や制限を禁じ、「合理的配慮」を定めている。今回の「歩けない障害者は乗せない」という拒否は直接差別にあたる。今や障害者への対応は、解消法によってコンプライアンス(法令や社会規範の順守)の問題となっており、企業には法の理解が求められている。

航空各社「体抱えて案内」

車いすを持ち上げる施設がなく、障害者がタラップを上り下りしないといけないとき、ほかの航空会社はどう対応しているのか。ANA大阪空港支店総務部の広報担当者は「乗客にお声掛けしたうえで体を抱えてお手伝いしている。同行者がいない一人旅の

必要に応じて対応しているという。JAL広報部は「スタッフが体を抱えて(座席に)案内することになっており、その訓練もしている」と説明。ただ、体は触れられたくないなどの理由で乗客の承諾が得られない場合は、搭乗をあきらめてもらうことになるという。LCCのピーチ・アビエーションは、職員が体を抱えて機内まで案内している。(高木智、野田佑介)